『大学―At Berkeley』(2013)
日本初公開！

多彩なゲストによるトークも実施！

高橋洋（脚本家・映画監督）
三宅唱（映画監督）
樋口泰人（boid主宰）
相澤虎之助（映画監督・脚本家）
濱口竜介（映画監督）
綿野宏通（滋賀県立大学人間文化学部教授）
ジュリアン・ジェスタール（映画批評家・「リベラシオン」紙文化欄チームエディター）
ほか

フレデリック・ワイズマンの足跡 Part3
フレデリック・ワイズマンのすべて
2019年2.18[月]―3.2[土]／3.18[月]―3.30[土]

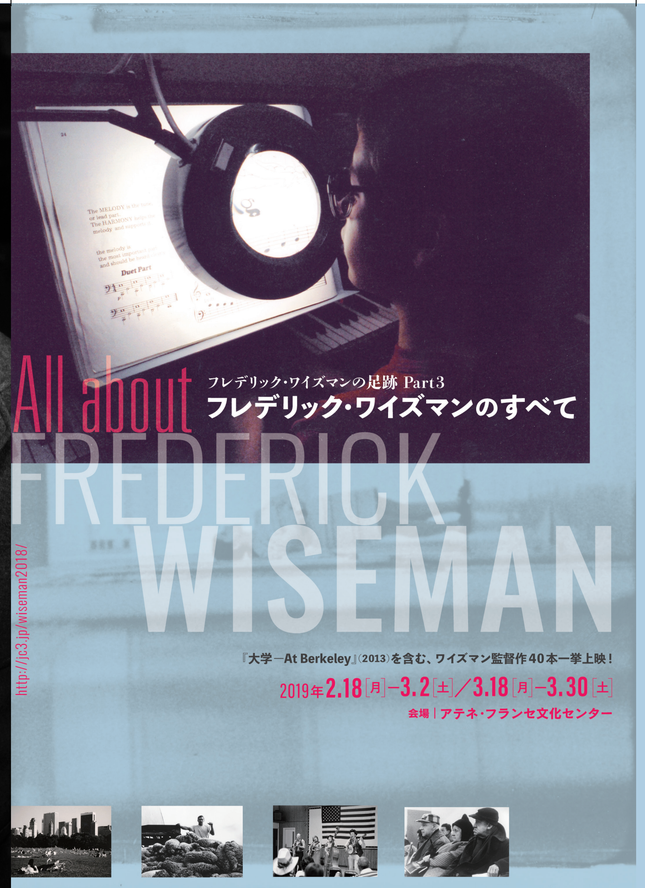
巨匠ワイズマンが見つめ続ける現代アメリカの現実と虚構。怒涛の40作品一挙上映！

All about FREDERICK WISEMAN

Titicut Follies|1967
High School|1968
Law and Order|1969
Hospital|1969
Basic Training|1971
Essene|1972
Juvenile Court|1973
Primate|1974
Welfare|1975
Meat|1976
Canal Zone|1977
Sinai Field Mission|1978
Manoeuvre|1979
Model|1980
The Store|1983
Racetrack|1985
Blind|1986
Deaf|1986
Adjustment and Work|1986
Multi-Handicapped|1986
Missile|1987
Seraphita's Diary|1987
Central Park|1989
Aspen|1991
Zoo|1993
High School 2|1994
Ballet|1995
La Comédie-Française ou l'amour joué|1996
Public Housing|1997
Belfast,Maine|1999
Domestic Violence|2001
Domestic Violence 2|2002
La Derniere lettre|2002
State Legislature|2006
La Danse-Le Ballet de l'Opera de Paris|2009
Boxing Gym|2010
Crazy Horse|2011
At Berkeley|2013
National Gallery|2014
In Jackson Heights|2015

お問い合わせ・会場
アテネ・フランセ文化センター
東京都千代田区神田駿河台2-11
アテネ・フランセ4F
TEL. 03-3291-4339（12:00-20:00） infor@athenee.net
http://www.athenee.net/culturalcenter/

主催：コミュニティシネマセンター、アテネ・フランセ文化センター／共催：映画美学校／特別協力：boid
協力：イメージフォーラム、岩波ホール、山形国際ドキュメンタリー映画祭、セテラ・インターナショナル、シュウゲート、弘前大学教学部、アンスティチュ・フランセ日本、チャイルド・フィルム、ムヴィオラ、ミモザフィルムズ



All about FREDERICK WISEMAN

フレデリック・ワイズマンの足跡 Part3
フレデリック・ワイズマンのすべて

『大学―At Berkeley』(2013)を含む、ワイズマン監督作40本一挙上映！

2019年2.18[月]―3.2[土]／3.18[月]―3.30[土]
会場｜アテネ・フランセ文化センター

http://jc3.jp/wiseman2018/

フレデリック・ワイズマンの足跡 Part3
フレデリック・ワイズマンのすべて
※やむを得ない事情により作品及び上映時間等が変更される場合がございます。

上映スケジュール

2月18日[月]
18:30 チチカット・フォーリーズ(1967/84分)
20:00 トーク／三宅唱[映画監督]＋高橋洋[脚本家・映画監督]ほか

2月19日[火]
16:00 病院(1969/84分)
18:00 福祉(1975/167分)

2月20日[水]
17:10 法と秩序(1969/81分)
19:00 基礎訓練(1971/89分)

2月21日[木]
17:00 高校(1968/75分)
18:40 少年裁判所(1973/144分)

2月22日[金]
15:00 エッセネ派(1972/86分)
17:00 霊長類(1974/105分)
19:10 肉(1976/113分)

2月23日[土]
13:50 モデル(1980/129分)
16:30 ストア(1983/118分)
19:00 競馬場(1985/114分)

2月26日[火]
15:30 適応と仕事(1986/120分)
18:00 聴覚障害(1986/164分)

2月27日[水]
16:20 視覚障害(1986/132分)
19:00 多重障害(1986/126分)

2月28日[木]
15:30 パナマ運河地帯(1977/174分)
19:00 ミサイル(1987/115分)

3月1日[金]
16:20 シナイ半島監視団(1978/127分)
19:00 軍事演習(1979/115分)

3月2日[土]
14:00 チチカット・フォーリーズ(1967/84分)
16:00 福祉(1975/167分)
19:00 トーク／樋口泰人[boid主宰]＋相澤虎之助[映画監督・脚本家]ほか

3月18日[月]
16:00 BALLET アメリカン・バレエ・シアターの世界(1995/170分)
19:20 ボクシング・ジム(2010/91分)

3月19日[火]
14:00 セントラル・パーク(1989/176分)
17:30 高校2(1994/220分)

3月20日[水]
15:00 コメディ・フランセーズ 演じられた愛(1996/223分)
19:10 最後の手紙(2002/62分)

3月21日[木・祝日]
14:00 臨死(1989/358分)

3月22日[金]
15:20 動物園(1993/130分)
18:00 DV ドメスティック・バイオレンス(2001/195分)

3月23日[土]
13:00 パブリック・ハウジング(1997/195分)
16:40 DV2 ドメスティック・バイオレンス2(2002/160分)
19:30 トーク／濱口竜介[映画監督]＋綿馬宏通[滋賀県立大学人間文化学部教授]

3月25日[月]
15:50 パリ・オペラ座のすべて(2009/158分)
19:00 クレージーホース・パリ 夜の宝石たち(2011/134分)

3月26日[火]
15:00 ナショナル・ギャラリー 美術の宝室(2014/181分)
18:30 アスペン(1991/146分)

3月27日[水]
16:00 メイン州ベルファスト(1999/247分)
20:15 トーク／ジュリアン・ジェスタール[リベラシオン紙 文化欄チーフ、映画批評家]ほか

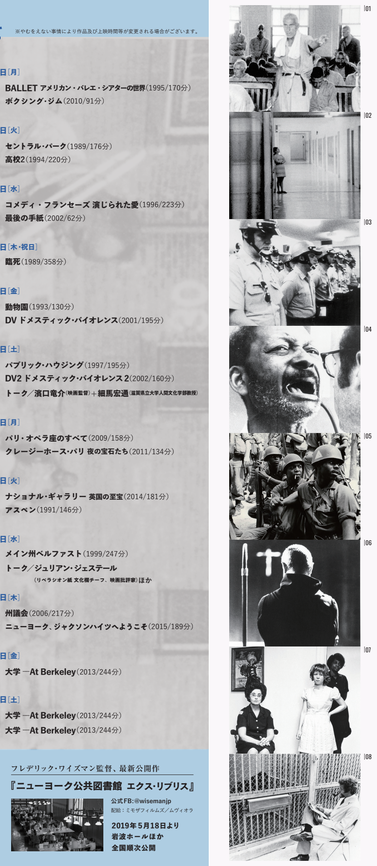
3月28日[木]
14:00 州議会(2006/217分)
18:10 ニューヨーク、ジャクソンハイツへようこそ(2015/189分)

3月29日[金]
17:30 大学 ―At Berkeley(2013/244分)

3月30日[土]
13:00 大学 ―At Berkeley(2013/244分)
17:30 大学 ―At Berkeley(2013/244分)

料金
一般｜1300円(3回券＝3000円)
学生／シニア｜1000円
アテネ・フランセ文化センター会員｜900円(3回券＝2400円)
■各回入替
■当日券のみ。通日1回目の上映開始20分前から当日上映分のチケットを販売。
■本特集の半券をお持ちの方なら トークにご参加いただけます。

フレデリック・ワイズマン監督、最新公開作
『ニューヨーク公共図書館 エクス・リブリス』
公式FB:@wisemanjp
配給：ミモザフィルムズ／ムヴィオラ
2019年5月18日より
岩波ホールほか
全国順次公開



フレデリック・ワイズマンの足跡 Part3
フレデリック・ワイズマンのすべて

All about FREDERICK WISEMAN

われわれ（アメリカ）の生活様式の博物誌

1967年の『チチカット・フォーリーズ』以来、“現代社会の観察者”として
独自の映像表現を展開し続けているドキュメンタリー作家フレデリック・ワイズマン。
50年以上にわたり、学校、病院、警察、軍隊、裁判所、図書館、議会など、アメリカの様々な施設・組織を撮り続けてきた。
ワイズマン自身が“〈われわれの生活様式の博物誌〉を紹介するドキュメンタリー・シリーズ”という作品群には、
悲劇的であると同時に喜劇的、深刻でありながら滑稽でもあり、複雑であると同時に素朴（ナイーブ）、
絶望の中にもユーモアが光る、矛盾に満ちた魅力的なアメリカの姿が映し出される。

上映作品　全作品日本語字幕付 / 全作品監督はフレデリック・ワイズマン

チチカット・フォーリーズ [Titicut Follies]　01
1967年｜84分｜白黒｜BD｜撮影：ジョン・マーシャル

マサチューセッツ州ブリッジウォーターにある精神異常犯罪者のための州立刑務所マサチューセッツ矯正院の日常を描いた作品。収容者が、看守やソーシャル・ワーカー、心理学者たちにどのように取り扱われているかが様々な側面から記録されている。合衆国裁判所で一般上映が禁止された唯一の作品。永年にわたる裁判の末、91年にようやく上映が許可された。

高校 [High School]　02
1968年｜75分｜白黒｜16ミリ｜撮影：リチャード・ライターマン

フィラデルフィア郊外にある“模範的な”高校の日常を追っている。朝のホームルーム、授業の風景、生活指導、父母を交えた進路相談、男女別に行われる性教育や家庭科の授業、クラブ活動……。高校を構成する教師、生徒、親、管理職たちの関わり合いの中で、イデオロギーや価値観が醸成され、伝えられていく。

法と秩序 [Law and Order]　03
1969年｜81分｜白黒｜16ミリ｜撮影：ウィリアム・ブレイン

ミズーリ州カンザス・シティの、最も犯罪率の高いアドミラル・プールヴァール管轄区にある警察の活動を追っている。売春の摘発、未成年犯罪者や拳銃を所持する窃盗犯の逮捕など緊迫した状況を追う一方で、老女のバッグ探しや迷子の保護、養育権をめぐる夫婦のいさかいの仲裁など、市民生活のあらゆる側面に関わる警察の活動を捉えている。

病院 [Hospital]　04
1969年｜84分｜白黒｜16ミリ｜撮影：ウィリアム・ブレイン

ニューヨーク市、ハーレムにある大きな都市病院、メトロポリタン病院の活動を、緊急棟と外来患者診療所に焦点を当てて記録した作品。病院に運びこまれる様々な患者とその処置をする職員とのやりとりを通して都市が抱える多くの問題を浮かび上がらせる。

基礎訓練 [Basic Training]　05
1971年｜89分｜白黒｜BD｜撮影：ウィリアム・ブレイン

ケンタッキー州フォートノックスの基地で行われる新兵を育成するための基礎訓練の様子を描く。行進や格闘、射撃や銃の使い方を学ぶ教練、生活指導、イデオロギー教育やカウンセリング等々を通して、まだ子どもっぽさの抜けない若者が兵士に仕立て上げられていく。ベトナム戦争の最中に撮影された。

エッセネ派 [Essene]　06
1972年｜86分｜白黒｜16ミリ｜撮影：ウィリアム・ブレイン

ベネディクト会エッセネ派の僧院の日常を追う。個人の欲求と組織としての論理の対立、規則、労働、信仰、価値、愛、そして祈り。日々の生活の中で修道士たちが直面する問題は特別なものではなく、“組織”というものが抱え込まざるをえない共通の問題であることが見えてくる。

少年裁判所 [Juvenile Court]　07
1973年｜144分｜白黒｜16ミリ｜撮影：ウィリアム・ブレイン

テネシー州メンフィスにある少年裁判所を撮った作品。罪を犯した少年を裁く訴追側や裁判官だけでなく、少年側に立つ弁護士やソーシャル・ワーカーにとってでさえ、各事件はあくまで膨大な日常業務の流れの中にあるという事実が冷静に積み重ねられてゆく。次々に捌かれてゆく事件の合間で、裁かれる少年の切実な表情が目を射る。

霊長類 [Primate]　08
1974年｜105分｜白黒｜16ミリ｜撮影：ウィリアム・ブレイン

霊長類に関する研究の先駆的な施設として知られるヤーキーズ霊長類研究所で撮影。猿を使った様々な動物実験が、その研究の目的や意義は説明されないままに、次々と映し出される。虐待と見誤りかねない数々の実験の映像は、故意に研究所を貶めたとする人々と、生体実験に反対する人々との間に激しい議論を巻き起こした。

福祉 [Welfare]　09
1975年｜167分｜白黒｜16ミリ｜撮影：ウィリアム・ブレイン

ニューヨーク市のウェイヴァリー福祉センターを舞台に福祉行政のありようを描いた作品。住宅問題、失業問題、医療問題、幼児虐待などの児童問題、老人問題など、多様な問題と関わる福祉システムの性質を検証し、福祉活動家の置かれている状況、受益者の問題、福祉の本質などを浮かび上がらせる。

肉 [Meat]　10
1976年｜113分｜白黒｜16ミリ｜撮影：ウィリアム・ブレイン

牛がトラックで牧場の外へと連れ出され、巨大精肉工場で製品化され、市場に送り出されていくまでの全工程を記録する。「牛」が徹頭徹尾「肉」として扱われるこの場所で、細分化された各工程が一分の狂いもなく進行する過程を、的確な映像と編集のリズムによって映し出していく。

パナマ運河地帯 [Canal Zone]　11
1977年｜174分｜白黒｜BD｜撮影：ウィリアム・ブレイン

永年、事実上アメリカの植民地だったパナマ運河地帯。1977年にカーター大統領は新運河条約を締結し、運河を米パ両国で共同管理することを決めた。政府関係者、軍人、ビジネスマンなど、この地帯で暮らす様々な“アメリカ人”の生活が描かれる。同地帯は1999年12月31日にパナマに完全返還された。

シナイ半島監視団 [Sinai Field Mission]　12
1978年｜127分｜白黒｜16ミリ｜撮影：ウィリアム・ブレイン

1973年10月第四次中東戦争が終結し、第二次シナイ協定に基づき、エジプトとイスラエルの間のシナイ緩衝地帯に米国シナイ半島監視団が置かれた。灼熱の砂漠の中の小隊、“アメリカの外のアメリカ”として“アメリカらしさ”が奇妙に凝縮されたこの場所を、ワイズマンは広大な砂漠のごく小さな一点として映像に収めている。

軍事演習 [Manoeuvre]　13
1979年｜115分｜白黒｜16ミリ｜撮影：ジョン・デイヴィー

東西対立時代に毎年行われていたNATOの秋季大演習に密着取材し、記録した作品。1978年の演習は北極海から地中海までの加盟国全域に渡る大規模なもので、特に旧東ドイツとの国境近くで集中的に行われ、第三次世界大戦を想定したデモンストレーションと見なされ、国際的に大きな波紋を呼んだ。この作品からジョン・デイヴィーが撮影を担当している。

モデル [Model]　14
1980年｜129分｜白黒｜16ミリ｜撮影：ジョン・デイヴィー

ニューヨーク市でも最高のモデル事務所であるゾリ・マネージメント社を舞台に、化粧品やデザイナーズ・ブランドのCMやファッション・ショー、広告などの仕事をする男女のモデルたちを追っている。彼らを取り巻くエージェント、カメラマン、撮影スタッフやデザイナーなどの姿を通してファッション・ビジネス界のありさまが描かれる。

ストア [The Store]　15
1983年｜118分｜カラー｜16ミリ｜撮影：ジョン・デイヴィー

1907年の開店以来、高級百貨店として揺るぎない地位を築いてきたニーマン＝マーカス百貨店テキサス州ダラス本店。1982年のクリスマス・シーズンにおけるニーマン＝マーカスを舞台に、訪れる客や接客する従業員、華やかな売場の舞台裏で働く人々の姿が映し出される。ワイズマン初のカラー作品。

競馬場 [Racetrack]　16
1985年｜114分｜白黒｜16ミリ｜撮影：ジョン・デイヴィー

世界屈指のサラブレットの競馬場、ニューヨーク・ベルモント競馬場についてのドキュメンタリー。厩舎での馬の出産から始まり、調教師や飼育係、馬主、獣医たちの活動、レースをとりまく人々、観客たち、騎手たち、この競馬場の経営を支えるオーナーたちの巨大なパーティとその舞台裏まで、競馬というビジネスのあらゆる側面が映し出される。

視覚障害 [Blind]　17
1986年｜132分｜カラー｜16ミリ｜撮影：ジョン・デイヴィー

1984年の秋にアラバマ聾盲学校（AIDB）で行った撮影の結果、一本の映画にまとめることは不可能だと判断したワイズマンは、約九時間の長編としても成立する四部作として「Deaf and Blindシリーズ」を完成させた。第一部となる本作は、視覚障害の子どもたちの盲学校での日常を、技法的な編集を極力排して丹念に描き出していく。

聴覚障害 [Deaf]　18
1986年｜164分｜カラー｜16ミリ｜撮影：ジョン・デイヴィー

「Deaf and Blindシリーズ」第二部。聾学校で寄宿生活を送る子どもたちの記録。口頭での会話、聴覚補助、読唇術、筆談などと手話を組み合わせて使うトータル・コミュニケーションによる教育、心理カウンセリング、通常の学科の授業、職業訓練やレクリエーションなど、この学校の中で行われる様々な活動が記録されている。

適応と仕事 [Adjustment and Work]　19
1986年｜120分｜カラー｜16ミリ｜撮影：ジョン・デイヴィー

「Deaf and Blindシリーズ」第三部では、E.H.ジェントリー技術訓練校の日常を捉える。盲学校、聾学校を終えた人や、成人後に障害をもった人が、生活のための訓練や、社会的に自立するための様々な技術の修得を行っている。自らの能力の限界に焦りや絶望を示す者がある一方、「適応」を終えた人々が作業場で仕事に打ち込む様子は圧倒的な活気に満ちている。

多重障害 [Multi-Handicapped]　20
1986年｜126分｜カラー｜16ミリ｜撮影：ジョン・デイヴィー

「Deaf and Blindシリーズ」最終章の舞台であるAIDB内のヘレン・ケラー校は、多重障害や知覚障害の生徒に教育と訓練を施すことを目的としている。盲かつ聾唖の人に加え、盲の多重障害、聾唖の多重障害という三種類の生徒が学んでいる。重度の障害をもつ生徒には念入りな個別指導が行われ、比較的障害の軽い生徒は集団で知育道具や日用品を使ったトレーニングに励む。

ミサイル [Missile]　21
1987年｜115分｜カラー｜16ミリ｜撮影：ジョン・デイヴィー

カリフォルニア州ヴァンデンバーグ空軍基地で行われる、ICBM（大陸間弾道ミサイル）打上げ管制センターに配属される空軍将校の訓練を記録している。戦略航空軍団第4315訓練艦隊に焦点を当て、核戦争についての道徳的・軍事的議論や、ミサイルの装備、発射、暗号、通信、テロリストの攻撃からの防衛、緊急体制等に関する講義や訓練、職員会議、個人指導などが描かれる。

臨死 [Near Death]　22
1989年｜358分｜白黒｜16ミリ｜撮影：ジョン・デイヴィー

ボストンのベス・イスラエル病院特別医療班についての映画。尊厳死、脳死、インフォームド・コンセント、インフォームド・チョイスなど、死と生の境界をめぐる末期医療の問題を臨床現場から掘り起こした6時間に及ぶ超大作。ハーバード大学の付属機関であり、先端の医療技術を誇るこの病院の集中治療棟で行われる生命維持装置を使った診療をめぐり、患者と医者が直面する現実に多角的に迫っている。

セントラル・パーク [Central Park]　23
1989年｜176分｜カラー｜16ミリ｜撮影：ジョン・デイヴィー

ニューヨークのランドマークのひとつセントラル・パーク。人々は、様々なかたちでこの公園を活用している。ジョギング、ボート遊び、スケートなどのスポーツ、散歩、ピクニック、パレード、コンサートなど音楽や演劇の発表、映画の撮影も行われる。市の公園課はここを維持し、一般に開放するために様々な問題に対処すべく奮闘する。

アスペン [Aspen]　24
1991年｜146分｜カラー｜16ミリ｜撮影：ジョン・デイヴィー

19世紀には有名な銀鉱山だったコロラド州アスペン。現在は、風光明媚で、登山、スキーなどのリゾート地、音楽や文化活動の盛んな町、またセレブが住む町として知られる。町の成り立ちを反映するように、自然と人工物、古い価値観とスーパーリッチといった対立がいたるところに見られる。

動物園 [Zoo]　25
1993年｜130分｜カラー｜16ミリ｜撮影：ジョン・デイヴィー

フロリダ州マイアミのメトロポリタン動物園の日常を記録している。世界中から訪れる入場者、飼育係による動物の世話や獣医の仕事、また、表面には現れない、寄付を募るパーティや広報活動、調査・研究活動などを紹介しながら動物園が運営されるメカニズムに迫る。

高校2 [High School 2]　26
1994年｜220分｜カラー｜BD｜撮影：ジョン・デイヴィー

ニューヨーク、マンハッタンのスパニッシュ・ハーレム地域にある、『ミュージック・オブ・ハート』の舞台ともなった進学校セントラル・パーク・イースト高校。革新的教育者デボラ・マイヤーの理念に基づくユニークなカリキュラムによる授業、保護者との面談、進路指導、人種、階級、性別についての討論、教師たちのミーティング、性教育、生徒によるユニークな紛争解決の試み等々、高校生活の様々な場面を映し出す。

BALLET アメリカン・バレエ・シアターの世界 [Ballet]　27
1995年｜170分｜カラー｜16ミリ｜撮影：ジョン・デイヴィー

ニューヨークに拠点を置くアメリカを代表するバレエ団「アメリカン・バレエ・シアター」の1992年の活動を記録。前半はスタジオでのリハーサル風景やバレエ団の運営に関わる活動を、後半はアテネとコペンハーゲンでの公演を追う。振付家とダンサーたちのリハーサルの様子や、アクロポリス、コペンハーゲン国立劇場という荘厳な舞台での華麗な公演風景は見るものを魅了する。

コメディ・フランセーズ　演じられた愛　28
[La Comédie-Française ou l'amour joué]
1996年｜223分｜カラー｜16ミリ｜撮影：ジョン・デイヴィー

歴史と伝統を誇るフランスの国立劇団「コメディ・フランセーズ」の全貌。企画会議から舞台のリハーサル、劇場の全景、演出家や俳優たち、楽屋裏の様子、経営委員会や劇団の年金制度をめぐる会議に至るまで、克明に描き出す。ラシーヌの「ラ・テバイット」、モリエールの「ドン・ジュアン」など、四つの芝居の模様が部分的に記録されている。

パブリック・ハウジング [Public Housing]　29
1997年｜195分｜カラー｜16ミリ｜撮影：ジョン・デイヴィー

シカゴ郊外の公共住宅供給事業の記録。居住者のほとんどが貧しい黒人である公共住宅の日常、管理組合の運営、警察の役割、住宅内で行われる職業訓練、青少年のための放課後の活動や託児所の運営といったプログラムや、10代の母親たち、崩壊した家庭、老人問題など、公共住宅が抱える問題を描く。

メイン州ベルファスト [Belfast, Maine]　30
1999年｜248分｜カラー｜16ミリ｜撮影：ジョン・デイヴィー

メイン州にある人口6500人の典型的なアメリカの町ベルファストに関するドキュメンタリー。現在ではメイン州でもっとも貧しい町のひとつであるが、かつては商業的に栄えた町であり、天然資源に恵まれた土地でもある。ワイズマンは「ベルファストの日常生活が経済的圧力によっていかに変化したか、あるいは変化していないかを記録しようと考え、この町の様々な組織とそこでの日常生活を検証した」と述べている。

DV ドメスティック・バイオレンス [Domestic Violence]　31
2001年｜196分｜カラー｜16ミリ｜撮影：ジョン・デイヴィー

フロリダ州タンパにあるDV被害者保護施設「スプリング」は年間1650人もの成人と子どもを受け入れている。経済的抑圧、精神的・肉体的虐待、性的虐待…。加害者は被害者を傷つけ、支配しようとする。なぜ家族がお互いを傷つけあうのか、被害者は傷つけられることを許してしまうのか。映画に映し出される現実は、この問題について我々が抱いているステレオタイプを覆していく。

DV2 ドメスティック・バイオレンス2 [Domestic Violence 2]　32
2002年｜160分｜カラー｜16ミリ｜撮影：ジョン・デイヴィー

前作が被害者救援施設を舞台としたのに対し、本作ではDVが裁かれる法廷に舞台を移す。当事者同士の接触を避けるため、加害者はモニターに映し出されるだけの法廷。何組もの被害者と加害者が登場し、様々なDVの審理が進められる。延々と映し出されるいくつもの裁判。法廷審理から彼らの人生とドラマが浮かび上がる。

最後の手紙 [La Derniere Lettre]　33
2002年｜62分｜白黒｜35ミリ｜撮影：ヨルゴス・アルヴァニティス

ワイズマンが、コメディ・フランセーズの女優カトリーヌ・サミィのために脚色したワシーリー・グロスマンの小説「人生と運命」の一章を映画化した作品。1941年のウクライナ、ゲットーのユダヤ人はナチによって全員殺されることになった。年老いた女医アンナ・セミョーノワは、息子に宛てた手紙を口述する。自分の人生を振り返り、死と立ち向かう、女性の恐怖、勇気、弱さ、そして威厳が浮かび上がる。

州議会 [State Legislature]　34
2006年｜217分｜カラー｜16ミリ｜撮影：ジョン・デイヴィー

アイダホ州州議会の日常を追う。壮麗な州議会の建物の中では、校内暴力、狂牛病、間接喫煙の規制、電話料金等々、多様な問題を扱う多数の委員会が開かれている。委員会には議員だけでなく、ロビイスト、それぞれの問題の専門家や関係者、一般の市民も参加する。果てしなく続けられる議論の合間に、州議会を見学に訪れる子どもたち、ロビーで行われるコンサートの模様などが挿入される。

パリ・オペラ座のすべて　35
[La Danse - Le Ballet de l'Opera de Paris]
2009年｜158分｜カラー｜35ミリ｜撮影：ジョン・デイヴィー

世界でもっとも早く生まれたバレエ団を抱えるパリ・オペラ座。カメラは奈落から屋上まであらゆる場に入りこみ、ダンサーたちはもちろん、バレエ団トップのルフェーヴル女史、振付家、ベテランダンサーの教授陣から演奏家、衣装係、舞台美術、照明係などの裏方たちまで様々な活動を映し出す。

ボクシング・ジム [Boxing Gym]　36
2010年｜91分｜カラー｜BD｜撮影：ジョン・デイヴィー

テキサス州オースティンにある元プロボクサー、リチャード・ロードが開いたボクシング・ジム「ローズ・ジム」。ここには様々な人々がやってくる。大人も子どもも男も女も、プロを目指す者もスポーツ好きなアマチュアも、医者、弁護士、裁判官、ビジネスマン、移民、プロボクサーも。ローズ・ジムは、人々が出会い、話し、鍛える、人間のるつぼ…。アメリカそのものだ。

クレージーホース・パリ 夜の宝石たち [Crazy Horse]　37
2011年｜134分｜カラー｜DCP｜撮影：ジョン・デイヴィー

ムーラン・ルージュ、リドと並ぶパリの三大ナイトショーのひとつ「クレージーホース」。2010年、フィリップ・ドゥフクレの振付による新作ショーの準備が進められている。リハーサル、メイクアップ、衣装の制作、オーディション、運営会議等を記録。ダンサーの完璧なボディと緻密に計算された音と光の演出でパリを魅了してきたクレージーホースの全貌を描き出す。

日本初公開！
大学―At Berkeley [At Berkeley]　38
2013年｜244分｜カラー｜DCP｜撮影：ジョン・デイヴィー

ワイズマンが“大学”を撮った作品。カリフォルニア大学バークレー校は、1868年に創設された州立カリフォルニア大学の発祥地であり、アメリカで最も古く権威のある総合大学である。世界有数の研究教育機関であり、学生運動の拠点にもなったリベラルな校風でも知られる。教育研究機関として知的・社会的使命を果たすための授業や研究活動、大学構内で行われる学生たちの様々な活動、スポーツイベントやコンサート。また、大学を維持・管理・経営していくための無数の会議や行政との折衝など、大学で行われるあらゆる活動を追っている。

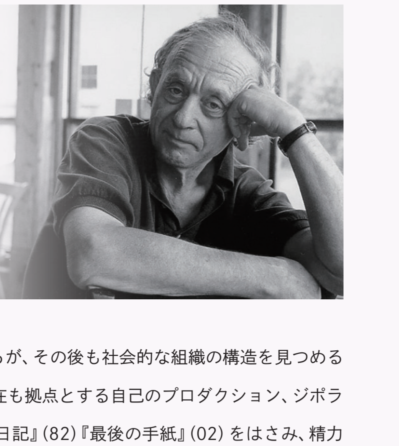
ナショナル・ギャラリー　英国の至宝 [National Gallery]　39
2014年｜181分｜カラー｜DCP｜撮影：ジョン・デイヴィー

ダ・ビンチ、モネ、ゴッホ、ミケランジェロなどの名作を擁し、“世界最高峰”と賞される英国「ナショナル・ギャラリー」。ギャラリートークやワークショップ、館内ツアーや、丹念な修復作業、閉館後に行われる展示や照明のチェック、運営会議等々、美術館で行われる様々な活動を記録する。

ニューヨーク、ジャクソンハイツへようこそ　40
[In Jackson Heights]
2015年｜189分｜カラー｜DCP｜撮影：ジョン・デイヴィー

ニューヨーク市クィーンズ区の北西に位置する、ニューヨークで最も多様性に富む町ジャクソンハイツ。南アメリカ、メキシコ、バングラデシュ、パキスタン、アフガニスタン、インド、中国等々の移民たちが住み、167の言語が話される。ワイズマンは、この町に生きる商店主たち、LGBTの人々、ボランティア、老人たち、子どもたち、不法滞在者等々の多様な姿を、生き生きと彩り豊かに捉えている。

FREDERICK WISEMAN フレデリック・ワイズマン



1930年生まれ。イェール大学大学院卒業後、弁護士として活動を始める。やがて軍隊に入り、除隊後、弁護士業の傍ら大学で教鞭をとるようになる。63年にシャーリー・クラーク監督作品『クールワールド』をプロデュースしたことから映画界と関係ができ、67年、初の監督作となるドキュメンタリー『チチカット・フォーリーズ』を発表。マサチューセッツ州で公開禁止処分となるが、その後も社会的な組織の構造を見つめるドキュメンタリーを次々に制作する。71年に現在も拠点とする自己のプロダクション、ジポラフィルムを設立。以後、劇映画『セラフィータの日記』(82)『最後の手紙』(02) をはさみ、精力的にドキュメンタリーを作り続けている。2018年『ニューヨーク、ジャクソンハイツへようこそ』が公開され、今春には『ニューヨーク公共図書館 エクス・リブリス』(2017) が劇場公開される。最新作は本年度ヴェネチア国際映画祭特別招待『Monrovia, Indiana』(2018)。「現存の最も偉大なドキュメンタリー作家」と称される。